



だより

— つながれ ひろがれ —

第157号

特定非営利活動法人

環境パートナーシップちば

TEL: 090-8116-4633

E-mail: info@kanpachiba.com

https://kanpachiba.com/

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば第7回通常総会

可能な社会づくりとパートナーシップ

代表理事 桑波田 和子

本日は、ご多忙の中ご出席いただき、ありがとうございます。会員の皆様には、日頃ご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

ご来賓として、(一財)千葉県環境財団営業担当部長小笠原様にご臨席いただき、おかげさまで、第7回通常総会を開催することができました。

環境中間支援団体としての当会の役割をいつも模索しながら、活動を展開しています。常に「持続可能な社会を目指し!」を謳ってきました。

2023年度の事業を振り返りますと、1つ目では、地球環境基金の助成金を受けて6年間実施してきた総括の年として、SDGs・ESDの達成に向けた南・北の拠点づくり。拠点づくりでは、千葉県内での多くの活動の発見、今後に向けての役割などありました。

2つ目では、千葉県主催の「若者が主役の環境

保全応援事業」を当会が受託し、若者と地域の団体の思いを強く感じました。今後の千葉県を支える若者へ期待しながら、地域と繋ぐ事の必要性を思わせてくれました。

3つ目は「エコメッセちば2023 in ちば」の開催です。多様な主体の参加を通して、環境への気づき・行動する人へと託す思いで展開しています。

これらの活動を通して、持続可能な社会へ向けて多様な主体をつなぐ「パートナーシップ」が重要と思います。

2024年度は、「SDGs・ESDの拠点」、「若者が主役の環境保全応援事業」受託、「エコメッセちば2024」他、「パートナーシップ」の重要な役割が中間支援団体「NPO 環パちば」にあるとして、活動を展開して参ります。

ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

ご挨拶

本日は総会にお招きいただき誠にありがとうございます。第7回目となる総会の開催、誠にありがとうございます。「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、SDGs・ESD関係の事業、地域の環境保全活動や循環型社会づくり、地球温暖化対策啓発活動、また、長年にわたりエコメッセちばの実行委員会事務局として、多様な主体との連携、協働、取り組み、そのような活動に対して改めて敬意を表する次第です。

当財団は県及び関係市町村の環境行政の補完的役割を担うことを目的として設立された団体でございます。公益事業として、環境保全に係る取り組みへの支援や地球温暖化防止活動推進センター、並びに、収益事業として、環境調査・分析等を通し、信頼と技術力の維持向上を図りながら各種の環境関係事業を実施しているところでございます。

近年では、千葉県から受託した浄化槽法に基づく指定検査機関の業務が軌道に乗り、千葉県南部地域に設置された浄化槽に対して実施する検査や、

(一財)千葉県環境財団 小笠原 千幸

検査受検率向上のための啓発活動などを新たな業務として実施しているところでございます。

物価の高騰や円安などで活動がしにくい場面もありますが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、対面でのいろいろな活動が前に戻りつつあります。これからは、再び様々な活動が展開されていくことになるのだろうと思っています。

今後も「エコメッセちば」などをとおして「環境パートナーシップちば」の皆様の輪がさらに大きく、つながり、ひろがっていくことを期待しております。当財団といたしましても様々な環境問題解決のため、いろいろな取り組みをしていきたいと考えておりますのでご協力、ご指導をよろしくお願いいたします。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますのご発展と会員の皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

年度初頭の挨拶

千葉県環境生活部 循環型社会推進課長 石田 涼

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、日頃、地域の環境保全活動の推進や多様な主体との連携など、本県の環境行政の推進に多方面から御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。また、エコメッセちばの実行委員会事務局として、長年多大なる御尽力をいただいております。改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、県では令和3年度に策定した「千葉県環境学習等行動計画」に基づき、私たち一人ひとりが環境問題を「自分ごと」として捉え、自らのライフスタイルや事業活動を環境に配慮した形へ転換するなど、「行動する人づくり」を進めています。気候変動、生物多様性の保全、海洋プラスチックごみや食品ロスなど、現在の環境問題は、社会のあらゆる主体が相互に連携・協働し取り組むことが必要であり、「環境パートナーシップちば」

の皆様の取組は大変重要だと考えています。

また、県では、SDGsの達成に向け、社会的関心が高まる中、環境活動の次代を担う若手人材の育成が急務となっていることを踏まえ、令和5年度から「若者が主役の環境保全活動応援事業」を開始しているところです。昨年度においては、初めての「若者が主役の環境保全活動アイデアコンテスト」の開催、応募を検討している若者のためのスタディツアーやコンテスト受賞3団体の活動報告会等の若者への伴走支援を行っていただきました。今年度においても引き続き、よろしくお願いたします。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますの御発展と、皆様の御健勝を祈念いたしまして、年度初頭の挨拶とさせていただきます。

第7回通常総会報告

令和6年5月26日(日)午後、第7回(2024年度)通常総会が千葉市生涯学習センター研修室におきまして、ZOOM オンラインとの併用で行われました。会員数41名に対し、会場参加9名、書面表決11通、委任状6通で総会成立の確認後、以下の議事に入り2023年度の事業報告と決算報告、2024年度の事業計画(案)と活動予算(案)について、それぞれ議案書通りに承認可決されました。会員の皆さまには、事前・当日を含め総会成立へのご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

議案の主な内容：2023年度は、地球環境基金助成金事業として「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点づくり事業」その他を実施し、新たな事業として千葉県受託事業「若者が主役の環境保全活動応援事業」を実施し、多くのご支援とご協力をいただきました。2024年度は、基本的には2023年度に実施してきた事業を継続しますが、その中でも「SDGs・ESDをひろげるための“ちば”拠点づくり事業」の、主にコア拠点としての活動を展開し、また若者支援、印旛沼への取り組みを進めます。

総会後の交流会では、石井雅章神田外語大学グ

ローバル・リベラルアーツ学部教授 当会理事より『地球環境基金事業を終えて、「環パちば」と「各千葉拠点」とのこれから』と題し話題提供をいただいた後、参加者から近況報告をいただきました。近況報告をいただいた皆様ありがとうございました。



(文責：川島 謙治)

交流会報告

せっかく総会でお会いできたのだから、交流して情報交換しましょう、ということで、久しぶりに交流会を行いました。交流会には、拠点づくりメンバーの方たちも参加してくださいました。

まず、話題提供として、神田外語大の石井雅章さんから、「地球環境基金事業を終えて 『環パちば』と『各“ちば”拠点』とのこれから」というテーマでお話いただきました。私の中では、次のようなことが心に残っています。

- SDGs における partnership (協働) は、SD (持続可能な開発・発展) 達成のための手法である。2030 年までにできるか、ではなくて、めざすもの。17 番目のゴールとして示されているが、おまけではなくて不可欠な「土台」である。
- 拠点=多様な生き方、暮らし方、関わり方の人々が交わる場として、各々の活動を担う皆さんに

過剰な負荷が増えない範囲で続けられれば。
・パートナーシップ=協働は単なる連携ではない。目的が異なる者同士でも、一緒に何かを行うことが重要。

続いて、参加者の齊藤清 (三番瀬フィールドミュージアム)さん、小堀功さん(とんがらし座)、千葉美賀子さん(もりびと)、井上守さん(オオカミと里山を考える会)、津本純子さん(ビオスの会)、高橋和香子さん(千葉興銀)、横山清美さん(浦安三番瀬を大切に作る会)、城之内健一さん(環パ)、関口宏聡さん(セイエイ)、小笠原千幸さん(環境財団)から近況報告がありました。これらの方々の報告を聴いて、石井さんのお話の「拠点とは、多様な生き方、暮らし方、関わり方の人々が交わる場」を再確認し、環パのこれからの方向性が少しだけ見えてきたような気がしました。

(文責：小倉 久子)

出展団体募集！！「エコメッセちば2024」

エコメッセちば実行委員会

「持続可能な社会の実現」を目指し「つながれ ひろがれ エコメッセ」をもとに、「身近な暮らしからもう一步！」をテーマにして、市民団体、企業、大学、行政など社会の様々な主体が参加・出展し、環境について子どもから大人まで楽しく学べる環境活動見本市「エコメッセちば2024」を開催します。

今年度は、SDGs の5 つの P にフォーカスして続けてきた助成事業の 5 年目として

Partnership を取り上げ、“みんな地球のレスキュー隊”をテーマに SDGs 実現に向けて県内で実践されている具体的な活動を紹介する場を提供したいと考えています。

今年度も団体紹介動画をホームページ上で公開す

るオンライン出展と幕張メッセ国際会議場を会場とする会場出展の2つの形態で参加可能です。オンライン開催は2024年10月19日(土)10:00から2025年第30回開催前日までエコメッセちばホームページ内で団体紹介動画を公開させていただきます。また、会場開催は2024年10月20日(日)10:00~16:00に幕張メッセ国際会議場を会場として、1区画(2m×2m)単位で100区画を募集します。

いずれの参加形態についても、エコメッセちばのHPの”お申し込みはこちら”からリンクしている申し込みフォームからお申し込みください。

(<https://www.ecomesse.com/>)

重要日程

- (4月11日) 第1回実行委員会総会開催
「エコメッセちば2024」出展募集案内開始
- 7月22日 会場出展募集締め切り
- 8月22日 オンライン出展募集締め切り
- 9月13日 第2回実行委員会開催
出展者説明会及び交流会開催
「エコメッセちば2024」開催案内開始
- 10月19日 「エコメッセちば2024」開催(オンライン)
- 10月20日 「エコメッセちば2024」開催(会場)

The flyer is titled "出展団体募集" (Exhibition Booth Recruitment) and "エコメッセちば2024". It includes the following information:

- 開催日時:** 2024年10月19日(土) 10:00~16:00 (会場) / 2024年10月19日(土) 10:00~16:00 (オンライン)
- 会場:** 幕張メッセ国際会議場 (会場) / オンライン (エコメッセちば)
- 募集期間:** 4月12日(金)~7月22日(月) (会場) / 4月12日(金)~8月22日(水) (オンライン)
- 内容:** 会場はSDGsの7目標をテーマにした出展 / SDGsの取り組み事例の発表や体験型展示もご紹介します。
- 申し込み:** 申し込みフォームからお申し込みください。

ESD・SDGsハンドブック作成しました。

ESD・SDGs達成するためにも環境学習(体験)プログラムが必要と、2018年度から3年間、各自(団体)が持つ環境学習プログラムにESD・SDGsの視点を入れたプログラム作りを行い、3冊の「ESD地域リーダー人材育成のための『ESDプログラム』ガイドブック」としてとりまとめました。

<https://kanpachiba.com/sdgs-esdprogram>

プログラムは3年間で44ありますが、その中でこれまで実践してきた20のプログラムを紹介する「ESD・SDGsハンドブック」を2024年3月に作成しました。

各プログラムは下記になります。特徴は写真やプログラム体験者・主催者の声等を入れたことです。

【地球温暖化/エネルギー】昔カレンダー

【資源循環】廃食油から学ぶエコせっけん教室／裂織コースターづくり／生ごみリサイクル教室／さき布でぞうりを作ろう／紙博士になろう！／ダンボールコンポストで地球の循環を知ろう！

【水循環】生命の源・水と旅して水マップをつくろう！／誰が川を汚したの(印旛沼バージョン)

【生物多様性】浦安三番瀬をもっと知りたい／オケラとトトキ(山で美味しいを体験する)／親子初めてハゼ釣り教室／秋の草木の観察と畑の収穫／親子生きもの探検／メダカ田んぼのお米づくり／里山と生物多様性

【その他(まちづくり)】こどもたちとつくる！夏まつり／五感を感じる森林浴 innerjourney／SDGs・ESDってなんだろう／プラごみアート

ハンドブックのpdf版は、環パちばのHP

(<https://kanpachiba.com>)

に掲載してありますので、ご覧頂き、参考にして頂ければ幸いです。またプログラムを活用したいなど当会へお問い合わせも受け付けますので、よろしくお祈いします。

(文責：桑波田 和子)



ユースボランティア事業がスタート

2020年の「SDGsを進めるためのプラットフォームづくり」の実験プロジェクトグループワーク「ユースとの連携」事業企画から、「ユースと考える地域課題解決のインターンシップ」というテーマが生まれました。

2021年、「鉄は熱いうちに打て」の習いにより具体化したのが「ユース発表交流会」で、ユースSDGs、ビーチクリーン、里山、そして地域を取り上げました。夏休みに県内の団体でボランティア体験活動したユースと受け入れ団体による発表、千葉県内で活躍する大学生団体活動の発表、山陽学園中・高地歴部(岡山県)の「SDGs啓発活動～問題を「自分事」として捉える実践への挑戦」の発表など、全国のユースの仲間が集まり、成果を出せたと思われました。

このボランティア体験活動とエコメッセちば会場でのユースと団体の発表・交流会の形を2022

年、2023年と継続してきました。受け入れ団体様には、毎年大変ありがたく、感謝しています。

2024年、新たに「ちば環境再生基金」の助成を受けて、活動を継続します。ボランティア受け入れ団体と参加のユースとでLINEミーティングにより交流するという新しい試みは、団体にとっては、チャレンジ。ユースにとっては、地域の活団体との交流をより深めることとなります。

また、体験報告を「エコメッセちば2024」にて展示発表形式で行い、エコメッセ来場者への発表と交流を進めることとしました。新たなチャレンジです。

皆様には、活動の場の一部を夏休みボランティア受け入れの場としていただけるよう、そして、エコメッセちば2024(10月20日幕張メッセ国際会議場)にご来場下さいますようお願いいたします。(文責：横山 清美)

「若者が主役の環境保全活動応援事業」について

千葉県では「千葉県環境学習等行動計画」において、ちばの未来を創る「行動する人づくり」を目標に掲げており、本県の環境活動をリードする若手人材の発掘・育成を図ることを目的に、昨年度から「若者が主役の環境保全活動応援事業」を実施しています。具体的には、主に20代までの若者が主体となって構成する団体やグループを対象に、環境課題の解決に向けたアイデアコンテストを実施するもので、優秀なアイデアには最大50万円の賞金を活動資金として交付するなどの支援を行っていきます。環境パートナーシップちばでは、昨年度に引き続きこの事業の運営を受託し、県とともに若者の挑戦を応援していきます。

コンテストは今年度もエコメッセの会場で行います。現在、コンテスト参加者の募集開始に向けて、コンテストに挑戦する若者に協力をさせていただく企業や団体を募っているところです。環境課題といっても様々。「あなたの好きなもの」にも環境課題があることに気づき、ごみの削減などの日

常における身近な課題から、気候変動を意識した壮大な課題まで、若者らしく想像力豊かなアイデアが掻き立てられるよう、分野にかかわらず多くの企業や団体の方々に御協力をいただけることを期待しています。

なお、昨年度は9つのアイデア応募がありました。そのなかから、

第1位：蘇れ！耕作放棄地 ～日本茜に託す私たちの想い～（成田日本茜復活チーム(県立成田西陵高校)）

第2位：里山活用コミュニティ「グリーンベース」（学生団体グリーンベース）

第3位：地域の特色を活かした自然体験型学習プログラムの画策（千葉大NE SO）

が選ばれ、着実に取り組みを進めています。昨年度以上にコンテストが盛り上がり、若者の登竜門として定着していくよう取り組んでいきますので、皆様の御理解と御協力をお願いします。

（文責：山内 可奈子）

開催報告 大和田機場 春の一般開放 2024 印旛沼わいわいサロン

日時：2024年4月6日（土）13:45～15:15

会場：大和田機場説明ホール

主催：NPO 法人環境パートナーシップちば

共催：印旛沼流域水循環健全化会議

参加者：22名：健全化会議、IVUSA、市民

今年の4月6日は桜が丁度満開でした。大和田機場には多くの市民が来場され、毎年好例の大和田機場試運転の放水では歓声もあがり、興味深く眺めていました。放水後、印旛沼わいわいサロンを開催しました。

プログラムは、「印旛沼を守る水資源機構」について、岡安管理課長より、歴史等も踏まえ丁寧な説明がありました。次に印旛沼流域で特にナガエツルノゲイトウ駆除でお世話になっているIVUSAの活動紹介を宇佐美凜香さんからお聞きしました。また、健全化会議事務局の県河川環境課から、印旛沼への取り組みを説明いただきました。

その後、「わいわい話し合っ、印旛沼の明日をつくっていこう！」一若者と考える印旛沼の未来part2-を5つのグループに別れ話し合いました。

短い時間でしたが下記の報告がありました。①休耕田の活用に取り組む。②オニビシを活用する。③ナガエツルノゲイトウの処理方法の検討。④印旛沼をもっと広報する。⑤印旛沼を一日中遊べる場所（テーマパーク）にする。

参加された大和田排水機場の土田所長様から後



大和田機場
試運転の放水



印旛沼わいわい
わいわいサロン

日、「印旛沼わいわいサロン」では、みなさん目をキラキラさせながら印旛沼について話をしていたのがとても印象的でした。印旛沼の管理運営におきましては、関係者の皆様のご協力なしにはやっていけません。」のメールを頂きました。

印旛沼への取り組みを、若者始め多様な主体で繋がり・行動する事をあらためて思うサロンでした。

（文責：桑波田 和子）

小金高校チームオーシャンズに学ぶこと

浦安三番瀬を大切にする会 横山清美

私が市民の皆さんと浦安海岸の三番瀬沿の護岸でゴミ拾いする活動を始めて25年になります。20年目には、小さなプラごみが小さくなる前に「プラごみ一掃作戦」として活動を発信し、継続しています。その声が首都圏内にも届くようになって、若い方々を中心に活動の現場としていただけるようになってきました。その中で県立小金高校の生物部と課題研究活動を担当されている先生が、2021年秋ゴミ拾い現場に課題研究とSDGsを学ぶ生物部の生徒を参加させて欲しいとのご連絡をいただき、11月のクリーンアップに参加いただきました。課題研究の生徒さんからは、インタビューもあり、後日の企画も聞かせていただきました。

2022年11月にもクリーンアップとプラごみアートの学習をしていただき、この体験がその後、回収したマイクロプラスチックをアクセサリーにして募金活動になっていったようで、2023年11月のクリーンアップに参加された時は、アクセサリーと募金の一部を浦安の活動に寄付いただいたことは大変嬉しいことでした。2024年2月の「SDGs学生フォーラム in ちば」に参加いただ

き、活動の継続などで大学生などと交流がありました。その時に4月の「アースデイ東京2024」にも出展することを発信されていまして、4月14日に代々木公園会場に行ってみました。

お天気の良い日の会場に元気な声でアクセサリーの販売と海洋プラスチックの話をしていました。ブース裏では、立教大学の環境問題を映像で伝えるチームがコラボしていて、対馬のゴミ問題をキャンドルワークしながら伝えることをしていました。どちらの活動もゴミ拾いだけではなく、海ごみゼロに向かって伝える活動をアースデイの場で行っていることを見て、私も活動の継続と啓発と連携を学ぶことができました。25年目からの浦安での活動にも元気をいただいたと考えています。



習志野環境フォーラム2024

だより155号の活動団体紹介欄でご紹介したNPO さざなみ（理事長 島田拓さん）が、2024年3月23日に「習志野環境フォーラム2024」を開催しました。

私は、チラシになつかしい「中村容子」というお名前を発見して、何十年ぶりかにお会いできることを楽しみにフォーラムに参加しました。中村容子さんは、谷津干潟の保全のために長く活動なさった方でした。

ところが、なんと、中村さんがフォーラムの直前にお亡くなりになったという主催者の島田さんのご報告から会が始まったのでした。お会いすることが叶わなかったことをおいても、残念でなりません。心からご冥福をお祈り申し上げます。

フォーラムでは、次の6件のプレゼンテーションがありました。

【第一部：私たちの海、東京湾】

谷津干潟、浦安三番瀬、行徳鳥獣保護区についての発表がありました。どれも何回か聞いたことのある話でしたが、改めて長い歴史の上に立っている現在を想いました。

【第二部：身近な山野、里山の自然】

習志野市、千葉市下大和田の里山についての発表がありました。「NPO さざなみ」が海と里山の両方で活動していることに合わせるように、このフォーラムも海と里山で構成されていたことが、とても新鮮でした。

【第三部】千葉工業大学村上和仁教授による特別講演は、「バイオエコエンジニアリングを活用した環境資源循環再生システムの構築」という、未利用資源の有効活用の研究紹介でした。

このように大変充実した内容のフォーラムでしたが、私が一番感動したのは、第一部の最後にオマケのように紹介された「erath FUNTRY」という若いお母さんたちのグループでした。次世代の活躍による明るい未来が見えました。

（文責：小倉 久子）



県内の環境保全活動人（団体）紹介 — 73 —

おききました！ この人・この団体

「自然共生サイト・堂谷津の里」認定記念講演会へのご招待

NPO 法人バランス 21/地主 金親 博榮

hirook@dp.u-netsurf.ne.jp



千葉の里山が『自然共生サイト』に、今春3月に認定されました。この事業は、30 by 30 (2030年までに、陸と海の30%を、生物多様性を保護増進する区域に設定する目標)に合致したエリアを、国立公園など現状の保護地域に10%を上乗せする民有地を募集する事業です。NPO 法人バランス 21 が応募し、このほど環境省の認定を得ることができました。

千葉市若葉区谷当（やとう）町には、長く耕作されていない田と湿地、ため池と、周囲の斜面林、竹林などからなる、房総半島の典型的な「里山」である「堂谷津の里」が眠っていました。

この地にNPOが挑戦して12年間、県内外から、昔ながらの米づくりに、広葉樹の林作りにいそむ人が集まりました。いろいろな命により良い生息環境を提供し、自らが楽しい、リフレッシュ出来る、周囲の環境からは隔絶された、多様な生き物に出会える楽園づくりが始まりました。

里山の復元活動が始まる以前から「環境保全区域の指定」を千葉市が開始しており、地主とのコンタクトをとっていたことも大きく作用し、谷津田を取り巻く15人の地主の同意を得て、10ha(10万㎡)のOECM(Other Effective area-based Measures)となったのです。米作りには、雨水と湧水の自然100%の灌漑用水と、無農薬、無化学肥料、冬季湛水を実践、その効果か、害虫、病気も発生せず、安定した栽培を確保しています。

山林は、かつて60年程前には、アカマツの真っ赤な幹が林立し山肌を覆う、さながら屏風のような光景を見ることが出来た里山でした。その後、マツノザイセンチュウにより松は全滅。残る杉も、溝腐れ病によって立ち枯れ、朽ちた後、アズマネザサに覆われ、コナラ、イヌシデなどの混交林と化して、人が足を踏み入れられない程の荒地に変貌してしまいました。

田は山林より後まで、米づくりを続けていましたが、30年ほど前ででしょうか、急速に利用されなくなり、田面ではハンノキ、柳が枝を張り、幹は20cmを超えるものも沢山ありました。これ等の伐根、除去は、もっぱら人力でした。機械力を使えなかった訳は、トラクターが何度も脱出できなくなり、これを救い出すにも、道路が狭く、大きな機械が近付けられない場所であったからです。最初の3年くらいは、まさに自然との格闘の期間でした。山林は、ひたすら草刈、枯れ木の伐採を繰り返し、山肌が遠望できる様になった頃から、一部エリアを皆伐し、コナラなどの苗を植えて昔の薪炭林の再生に挑戦し、今は背丈を超える木々が勢い良く成長しています。

このように、バランス 21 の、現場から得た各種のデータ収集力と記録に残す努力が生かされ（植物462、蝶57、トンボ22、昆虫8、両生5、ほ乳10、鳥43、計607種）、計画的な行動、これらを支える人の輪が持続してきたことが、今回の認定に大きな力となりました。

このうれしい出来事を、単にこのエリアだけのものに留める事なく、環パが進める「拠点づくり」とも相まって、生物多様性がより具体化するよう、活動しています。

来る6月15日(土)10:00東京情報大学にて、『自然共生サイト・堂谷津の里』認定記念講演会を開きます。環境省、県、市ほか各方面からの後援、支援を頂き、仲間をより増やす願いを込めた企画です。



運営会議報告

4月度運営会議

4月11日(木) 20:00~22:00

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・だより 156号 送付
- ・若者が主役の環境活動応援事業 3/22 選考会
- ・千葉興銀との連携 3/16
- ・理事会開催 3/27
- ・地球環境基金事業 会計・実績報告
- ・セブンイレブン基金事業実績報告
- ・いちはら環境フェスタ実行委員会 4/9
- ・千葉市公民館講座

【協議】

- ・だより 157号
- ・2024年度総会 5/26
- ・若者が主役の環境活動応援事業
- ・セブンイレブン記念財団基金事業 10/20
- ・ちば環境再生基金 10/20
- ・印旛沼環境基金
- ・SDGs・ESD ちば拠点 他

5月度運営会議

5月9日(木) 20:00~22:00

会場：オンライン (Zoom)

【報告】

- ・R6 年度若者が主役の環境活動応援事業 (委託事業) 進捗状況
- ・監査 4/15 4/19
- ・千葉興銀との連携 4/18 次回 9/28
- ・理事会開催 4/23
- ・ふなばしエコカレッジ 11/28 他

【協議】

- ・だより 157号
- ・2024年度総会・交流会 5/26
- ・エコメッセ出展
- ・いちはら環境フェスタ出展 6/8
- ・ちば環境再生基金 ユース活動の場発見!
- ・印旛沼環境基金 親子で印旛沼体験
- ・SDGs・ESD ちば拠点 他

お知らせ

・・・千葉県いすみ環境と文化のさとセンターのご紹介・・・

指定管理者：(一財) 千葉県環境財団

この施設には展示フロア、図書室兼レクチャールーム、工作室・和室が、野外には昆虫広場等の生態園やデイキャンプ場を併設しています。イスマスズカケやミヤコタナゴなどの生体展示、唐箕や縄ない機などの農具の展示は必見です。

なお、センターでは年間30回程の行事を開催しているほか、来訪する学校・団体等へ環境学習プログラム及び講師の提供なども行っていますので、詳しくはホームページやブログをご確認ください。

住所：いすみ市万木 2050 TEL:0470-86-5251



ホームページ <http://www.isumi-sato.com/>



ブログ <https://isumisato.exblog.jp/>

参加者募集中の主催行事 (一例)

- 海辺の植物観察 (7月27日(土) 9:30~12:00) 雨天中止 対象：小学生以上20名 参加費無料
＜日本最初の天然記念物指定地、太東海浜植物群落のスカシユリなどを中心に海辺の植物を観察＞

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ

事務局：〒262-0006 千葉市花見川区横戸台 21-13 特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

Tel : 090-8116-4633 E-mail : info@kanpachiba.com

ホームページ : <https://kanpachiba.com/>

※会費や会員申し込みなどの情報は上記 HP でご確認ください。